

## 進捗状況の概要 【1ページ以内】

本事業では、持続可能性が失われつつあるアジアの海の現状と多様性を体験的に理解し、多様な価値観、柔軟な問題解決能力を併せ持つ、持続可能な海洋環境と水産を実現する高度専門人材を養成する交流プログラムの構築を目指している。そのため、中国海洋大学、韓国釜慶大学校、マレーシアトレンガヌ大学と4大学コンソーシアムを形成し、日中韓マレーシア4大学間の短期留学プログラムおよび日中韓の2大学間の修士課程ダブルディグリープログラムを2つの柱として教育研究のグローバル化に取り組んでいる。養成した専門人材は、アジアの水産資源と海洋環境の回復を図り、‘海の恵み’を将来にわたって持続的に享受するため課題解決に向けて、関係国間の国際協働を橋渡しする役割を担うことが期待される。

1年目となる2021年度には、日中韓マレーシアの4大学連携によるコンソーシアム体制の構築や学内外の運営委員会の設置などプログラム運営のための基盤整備と、共通のルールに基づく学生教育システムの検討に不可欠な教務事項についての情報共有を推進した。また、学生に本プログラムの魅力を伝えるためのホームページや広報資料を作成し、優秀な学生を確保するための準備を整えた。さらに、新型コロナウイルスの感染者が国内外で急増し、実渡航による国際交流が大きな制約を受ける中、4大学のオンライン学生交流会を開催し、事業目的の達成に向けた国際連携による学生教育を始動させた。

2年目となる2022年度には、持続可能な海洋環境と水産を実現する高度専門人材の育成に向けて短期派遣・受入プログラムを開始した。そのため、短期派遣に関する学内説明会を開催して、派遣学生の募集・選考を行い、派遣が決定した学生を対象とする留学前英語能力向上プログラムや派遣前オリエンテーションを行った後、韓国とマレーシアへの短期派遣（実渡航3か月）を実施した。短期受入について、コンソーシアム形成大学を通じた受入学生の募集・承認の後、受入前オンラインオリエンテーションを行い、中国・韓国・マレーシアからの受入プログラム（実渡航3か月）を実施した。また、これらのプログラム終了後には、短期派遣および受入学生への留学後アンケート・ヒアリングを行うとともに、短期派遣学生による学内留学報告会を開催した。さらに、ダブルディグリープログラム制度の構築に向けた日中韓3大学間での協議を本学が主導して進め、4大学関係者によるキャンパスアジア・プラス委員会を対面会議として年度末に日本で開催し、単位互換や学務スケジュールに関する基本的事項について合意を得た。加えて、本事業に関する外部評価委員会を実施し、本事業の推進に向けた課題と対応策について整理した。

今後の展望として、短期留学プログラムについては、実渡航による派遣期間の延長や交流学生数の拡大に向けて取り組んでいく。また、附属練習船を使った海外大学への訪問航海にも着手して、学生交流プログラム内容の充実と交流学生数の積み増しを図っていく。ダブルディグリープログラムについては、大学間の覚書を交わし、研究科間の実施要項の合意を経て、2023年度中に学生の留学派遣を開始できるよう加速的に作業を進めて行く。

## 【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

		(単位:人)			
		2021年度		2022年度	
		派遣	受入	派遣	受入
計画※		0	0	6	6
実績		0	0	3	5
実際に渡航した学生 (以下「実渡航」)		0	0	3	5
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 (以下「オンライン」)	I	0	0	0	0
	II	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行った学生 (以下「ハイブリッド」)		0	0	0	0

I コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの  
II もともとオンライン実施で準備していたもの

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

## 特筆すべき成果（グッドプラクティス）Ⅰ【1ページ以内】

## 【Ⅰ 事業全般について】

## ●短期留学プログラムをハイブリッド型から実渡航型に切り替えて実施

2022年度から開始した短期留学プログラムについて、申請時には新型コロナ禍の影響を考慮してハイブリッド型での実施を計画していたが、年度途中において新型コロナ禍の状況が一時的に好転したことから、海外現地での交流期間を十分に確保でき、より留学効果の高い実渡航型に切り替えてプログラムを実施した。なお、実施に際しては、ワクチンの複数回接種や、研究室での対面活動前の抗原検査の実施など、新型コロナ感染防止に最大限の注意を払い、感染者を出すことなく終えることができた。

日本人学生の派遣については、釜慶大学校（韓国）へ2名、マレーシアトレンガヌ大学へ1名の計3名となった。申請時の計画人数は各大学へ2名ずつ計6名としていたが、中国海洋大学の短期留学の受入が外国人渡航制限により中止となったため、実質的には4名枠に対して3名の派遣となった。

外国人学生の受入については、中国海洋大学から1名、釜慶大学校から2名、マレーシアトレンガヌ大学から2名の計5名となった。申請時の計画人数は各大学から2名ずつ計6名としていたが、新型コロナの状況が厳しかった中国からの受入が1名に留まったものの、残りの2大学については当初目標を達成した。

留学した学生は、3か月の滞在期間中、水産と海洋環境に関する専門的な講義や乗船実習、研究室での研究体験プログラムなどに参加することができ、満足度の向上につながった。留学した学生からは、実渡航による留学期間の更なる延長を希望する声が複数寄せられたことから、2023年度の日本人学生の中国・韓国への派遣については、留学期間を4か月に延長することで相手大学と合意している。

## ●国際会議における本事業の特別セッションの開催

北太平洋海洋科学機関（PICES）の年次会合（2022年9月、韓国・釜山）において、本キャンパスアジア・プラス・プログラムの特別セッション「PICES-AFIMA Joint Seminar」を開催した。コンソーシアム形成大学である釜慶大学校の担当者がコンビナーとなり、本学の教員1名も渡航参画してセッションの運営にあたった。本学からは、釜慶大学校へ短期留学プログラムにより派遣していた学生2名が現地参加するとともに、学内経費による支援を受けて5名の学生が渡航参加して英語での研究発表を行い、口頭発表を行った学部生1名が優秀プレゼンテーション賞を受賞した。また、短期留学プログラムにより本学に受入れていた外国人学生5名も、本事業経費で導入したオンライン講義配信システムを使ってリアルタイムで参加した。このセッションに参加した学生・教員は、PICES加盟国である米国、カナダ、ロシア、韓国、中国、日本をはじめとする世界各国の学生・研究者と交流を深め、キャンパスアジア・プラスの国際人材育成活動を国際的にアピールする機会となった。次回のPICES年次会合（2023年10月、米国・シアトル）においても、本事業の特別ワークショップの開催が予定されている。

## ●国際連携教育のベースとなる共同研究体制の整備

採択時の審査結果表において、「世界をリードする高い研究能力を持つ研究者を養成するという観点から、肝心の研究面がおろそかにならない教育体制の整備が必要である」との評価コメントがあったことを受け、ダブルディグリープログラムを始めとする学生の国際連携教育のベースとなる教員同士の交流や国際共同研究の推進に取り組んだ。学内の令和4年度国際研究交流事業による支援を受け、水産・環境分野における韓国釜慶大学校との国際共同研究の活性化を目標に、2022年9月と11月に本学の教員3名・学生7名を韓国釜慶大学校に派遣し、相手大学の教員・学生との研究情報交換を通して、国際共同研究のための具体的な研究シーズの探索とマッチングを行った。また、両大学の若手教員の相互理解を深め、国際共同研究を効率的に進めることを目的として若手教員研究交流会（ウェビナー）を2023年2月に開催し、釜慶大学校教員14名と長崎大学教員11名が参加した。さらに、研究交流会の結果を踏まえて、共同研究グループの新規構築が期待される若手教員2名を2023年3月に釜慶大学校へ派遣し、共同研究の具体化を進めるとともに、本事業による長崎大学への学生受入プログラムに関する説明会を釜慶大学校の学部生や大学院生を対象に実施した。2023年度には、中国海洋大学との間でも同様な取組を実施して、両大学との国際研究交流を活性化させつつ、高度専門人材の養成を進めて行く予定である。

**特筆すべき成果（グッドプラクティス）Ⅱ【1ページ以内】****【Ⅱ オンラインの活用について】**

本事業申請時の2021年度に、世界的に新型コロナの影響が蔓延していた状況を考慮し、本事業がオンラインによる運用となることも想定し「オンライン講義配信システム（ハイフレックス型授業支援システム）」を導入した。「特筆すべき成果（グッドプラクティス）Ⅰ」に記載した通り、留学生の派遣・受入を実際に開始した2022年度には、新型コロナ禍の状況が一時的に好転したことから、より留学効果の高い対面・実渡航型に切り替えて派遣・受入プログラムを実施した。そのため、オンラインに過度に依存することなく本事業における派遣・受入を実施できたが、以下の内容において上記導入システムも利用したオンラインを活用することで、コンソーシアムを形成する4大学の学生交流および教育効果の更なる向上に繋がった。

**●釜慶大学校による大学院生セミナーおよびサマークラスのオンライン開催**

新型コロナの影響により学生交流が進まない状況を踏まえ、本事業1年目の幹事校である釜慶大学校により「AFIMA大学院生セミナー」（2022年1月）およびサマークラス「海洋ビジネスと経済」（2022年6月～7月）がオンラインで追加実施され、本学学生もそれぞれ参加した。前者のセミナーでは、持続可能な海洋環境と水産に関する最新の国際情勢を学ぶ特別講義が提供されたほか、日中韓マレーシアの大学院生18名による各自の研究紹介ショートプレゼンテーションが行われ、2022年度以降の本格的な海外留学の開始に向けて、学生の国際的な視座を養成することができた。これらオンラインによる取組みは、その後の2022年度夏期から開始した短期派遣・受入プログラムの学生への周知においても効力を発揮した。

**●国際会議における本事業の特別セッションへのオンライン参加**

「特筆すべき成果（グッドプラクティス）Ⅰ」にも記載した通り、北太平洋海洋科学機関（PICES）の年次会合（2022年9月、韓国・釜山）において、本キャンパスアジア・プラス・プログラムの特別セッションを開催した。その際、短期留学プログラムにより本学に受入していた外国人学生5名も、オンライン講義配信システムを使ってリアルタイムで参加し、主に水産・海洋科学分野の最新の研究に関する知見を深めた。また、同時期に釜慶大学校に本事業で短期派遣として留学していた中国海洋大学および本学学生ともオンラインで相互に交流できたことで、学習意欲の向上にも繋がる良い機会となった。